

# 山への強い思いを胸に励み 林業を後世へと紡いでいく



## 翔真林業 株式会社

兵庫県宍粟市波賀町有賀 83-1  
URL : <https://shoma-ringyo.jp>

兵庫県宍粟市を拠点に、森林整備事業を手掛ける『翔真林業』。勝部社長は「山に対して真っ直ぐに向き合い、仕事をしていきたい」という想いで会社を立ち上げた熱意ある人物だ。本日は俳優の大沢樹生氏が社長にインタビューし、詳しくお話を伺った。

代表取締役

勝部 翔太

interview

interviewer  
大沢 樹生



—まずは、勝部社長の歩みから。

幼いころ、父が土木や運送をメインとした『勝部重機』という会社を起業しまして、その背中を見て育ち、重機が大好きになりました。それで将来は会社を継ぎたいと思っていたところ、高校卒業後しばらくして父が林業を始めたんです。その時私は修業の意味も込めて一度は外の世界を経験したほうがいいということで、別会社で土木の基礎工事の仕事に従事しました。その後、林業が忙しくなったことから、家業に入社。実際に始めてみて、この仕事は自分に合っていると感じましたし、本当に楽しかったですね。

—具体的にはどういう部分が合っていると思われたのですか。

最近の林業機械は非常に進化していて優れているんです。幼少期から重機が好きということもあり、見たこともないような重機を使うのが、楽しくて仕方なかったですね。また、木の伐採は自然相手で難しいことも多いですが、乗り越えた時の達成感や、整備していく中でどんどん景色が変わっていくといった部分にも魅力を感じました。

—本当にこの仕事に合っていたのですね。やがて、ご自身の事業を始められて。

ええ。いずれは自分でやってみたいという夢を持っていたことも大きく、父と

も相談して独立することになりました。当初は『勝部重機』の従業員さんに手伝ってもらっていましたが、近辺が林業が盛んなことから『森林中学校』ができ、その卒業生たちに来てもらったりして、今は10名まで増えました。平均年齢も35歳以下と若いほうだと思います。

—若い人材が揃っているのは心強いですね。普段から従業員の皆さんに言われていることはありますか。

怪我をしてしまうと元も子もないので、毎朝必ず現場ミーティングしてから作業してもらっていますし、月に1~2回は雨で現場に行けない日があるので、皆で集まって話し合っ、周知しています。従業員に対しては、その時々の作業の内容が違えば危険の度合いも変わってくるので、一度危険なことを経験したらそれを繰り返さないように、と話しています。

—大切なことですね。御社の強みはどんなところだと思われますか。

林業機械がしっかり揃っているのはもちろんのこと、山に対しての思い入れを強く持っています。例えば「この木を切ると見た目が悪くなってしまふ」といったケースもあるのですが、見栄えも大事にし、かつ災害にも強くなるように作業しています。また年間を通して大半が地

元の所有者さんがいる民間の山に入っていますので、皆様に認めてもらえるような森林整備をしたいと常々思っています。そういった思い入れを持っているところが強みだと自負しております。

—誇りのあるお仕事をされていて、格好良いですね。最後に、今後の目標を。

従業員の数をさらに増やしていきたいですね。加えて、私自身も含め若い世代が多く、経験値がまだ低いので、育成にも力を入れていきたいと思っています。林業は危険もありますが、将来を担う素晴らしい仕事です。自然の中で働けることの素晴らしさをこれからの若い人たちにも伝え、共有し、一緒に仕事ができるようになればと考えていますよ。

(2023年2月取材)



「山や林業への尽きせぬ情熱をお持ちの勝部社長。ここまで自身の仕事を愛し、打ち込めることを羨ましく感じましたよ。今後もその情熱でいて、さらなる高みへと昇って行ってくださいね！」